

祝

入学

高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南
町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者 雨堤紀雄
発行責任者 柴田晴美

新入生への言葉

大切な高校時代

入学にあたって校長先生より新入生へ御言葉をいただきました。これをよく理解し、頭に置いて、阿倍野生活に臨んでもらいたいものです。

学校長 平田泰世先生
君の阿倍野高校への入学を、御家族の方々とともに祝いたい。

大阪府立阿倍野(一部にあらず)高等学校の前身たる大阪府立阿倍野(倍)にあらざり高等女学校は、府立第十一高等女学校として大正十一年(一九二二年)に創立している。よって通算すれば、本校は生まれて五十八年目を迎えることになる。本校の校舎はその大半が大正十二年に完成したもので、府立高校の現存する校舎としては最も古いものである。なお、創立記念日は十一月十一日であり同窓会を「芝蘭(しらん)会」と呼ぶ。また、生徒の襟や胸につける校章は、阿倍野高等学校の校章(笹りんどう)の一部を残し、それに聖火を配し学問とスポーツの両者を象徴している。

世の人の多くは、ややもすれば、高校は大学と中学校の中間存在としか把握しない。だが、そこに学ぶものにとつては、高校とはさう単純な存在ではない。まず身体について考えるに人間の身体は高校生の年代において驚くばかり成長しこの時代に身体はほとんどが完成してしまう。換言すれば、高校卒業後に身体は發育を期待しても無理だ、

一年生担任紹介

一年各クラスの担任の先生と学生主任の先生を紹介しよう。一年学年主任 浜 匡哉 一組 倉本先生(生物)



二組 小島先生(英語)

入学おめでとう。高校生としての三年間を本校で過ごす君たちにひとこと。君たちが、高く高く伸びた枝に葉をつけた木を見たとき、地下にもそれと同じくらい深く根が伸びていっていることに気づいてほしい。これからの三年間を木にならなければ、根を伸ばしひろげる三年間にして下され。嫌いな教科の勉強を三年間やりとげたと、根は広くひろがっていき、またつらい運動部の練習を三年間やりとげたとき、根は深く伸びているのです。

この新聞は
阿倍野高校新聞部が
編集・発行したものです

二・三年主任・担任紹介
二年学年主任 山田 力
一組 藪田俊信 英語
二組 山口真秀 理科
三組 坂本 昭 社会
四組 星 武 体育
五組 春木重恵 理科
六組 故山昭次 書道
七組 横山志津子 体育
八組 安芸研一(国語)

三年学年主任 弥園時雄
一組 大村みづ枝 英語
二組 阿波和夫 体育
三組 小泉育代 社会
四組 富田 克 美術
五組 杉野登喜子 国語
六組 一谷英晴 数学
七組 勝田洋一郎 国語
八組 森本清一(国語)



六組 樋川先生(体育)

入学おめでとう。君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

君達は今、喜び一杯で阿倍野高を去って行く日まで持ち続けてほしい。阿倍高に入ってからよかったと思える生活を送ってもらいたい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

入学おめでとう。自己の力をおもいきりぶつけて、それが認められた喜びを君達は心よくかみしめてほしい。初心忘れず、この阿倍高で精一杯がんばってほしい。

針の糸

新入生諸君、入学おめでとう。今までの苦しみから解放され、身も心もはずんでいこう。また、高校に入ったらあれもしたい。これもしたい。と希望に胸をふくらませていく人も多いであろう。苦難の末に入った高校だ。クラブ活動、自治会活動と自己を發揮する場は多い。充実した三年間を過ごしてほしい。だが入学したからといって、もうわづいたままではいけない。高校はきびしいところである。義務教育ではないから入退学は本人次第ということになる。勉強においてもやる気がなければ定期考査の際、欠点を取って追試。最悪の場合、留年ということになる。生活面でも喫煙、登校から放課後までの無断外出等については、中学校なら呼び出し、説教程度で済んだものが停学、退学となっていく。いざしにしても本人の責任においての処罰である。高校生ともなれば世間では大入扱いされる。自主性に尊重され、規則などでも制服があるとはいへ髪型、服装などに比較的自由を感じることもできるだろう。しかし何であれ、自由イコール自分勝手と思つてはいけません。幼稚園じゃあるまいし、今更何を言うか。と思うかも知れないが、人に迷惑をかけるな。自習時間など、ほとんどの人がムダな話に明け暮れ、時間をつぶしている。自習とは、授業時間である。ほかの組ではその話し声が授業の邪魔になっていることがある。我々は高校生である。幼稚園児ではない。したがって自分の行動に責任をもたねばならない。集団の中で生きていく限り、ルールは守らなければならない。貴重な学生時代、今しかできないことがあるはずだ。満足のいく阿倍高生活を送ってほしい。



高校時代、僕は自分が何ものであるのか、何をすべきなのか、ほとんど何ひとつ分からなかった。だが、せめて人を傷つけないように生きたい。と思った。分かってはいるが、それだけだった。けれども、今思えば、それで十分だったのだ。人を傷つけないこと、それ以外は何もなかった。それは、それがその通りだ。しかし、人は人を傷つけないでいるのは容易なことではない。当時、僕は自分では人を傷つけないでいるか分かっていなかった。できるかぎり寛容に、そして何にとも恐れず、精一杯立ち向かって下され。八組 樋川先生(社会)

100